

ネットでも地方競馬! 馬券を買うなら

オッズパーク!

会員数 200万人突破!
※2024年(令和6年) 8月21日時点

2・6^ホ 佐賀記念 JpnⅢ

4歳以上 / 佐賀2000m 2024優勝馬 ノットウルノ

佐賀記念(JpnⅢ)キャンペーン

2月6日(木)に開催される佐賀競馬の
勝馬投票券(重勝式を除く)をオッズパークで
合計5,000円以上購入いただいた方の中から抽選で

投票に使えるOPコイン 最大10,000円分をプレゼント!

※対象会員や応募要領など諸条件あり。詳しくはキャンペーンサイトにてご確認ください。

新規入会で

3,500円分の投票に使える OPコインが必ずもらえる!

※市中銀行会員及び入会後、コイン付与期間を経過する前に退会した場合を除く。
※詳しくはキャンペーンページをご確認ください。

クレジットカード & 電子マネー決済に対応!

お問い合わせ

FREE オッズパーク新規会員登録受付センター
0120-953-620

オッズパーク 検索

馬券は20歳になってから ほどよく楽しむ大人の遊び

●昨年の佐賀記念(JpnⅢ)結果

1着	8	11	ノットウルノ	牡5	59	武 豊	2:08.2
2着	6	7	キリンジ	牡4	55	和田竜 4	馬 身
3着	3	3	メイショウフンジン	牡6	56	酒井学 ク	ビ
4着	2	2	グランブリッジ	牝5	56	川田将 1/2	馬身
5着	5	6	ファルコンウィング	牡7	56	竹吉徹 大	差

と、古馬との初対戦となった12月の名古屋大賞典(JpnⅢ)は3着。ハンデ差があったとはいえ、勝ち馬からわずかにコンマ2秒差の大健闘、悔しさとともに、大きな手応えも掴んだ一戦となった。

主戦の吉原寛人騎手は「去年の秋から馬体に幅が出て良くなりました」と話し、打越勇児調教師も「高知の深い馬場で鍛えられているんだと思います」と自信を覗かせた。

JRAからは、昨年覇者のノットウルノ(牡6)が連覇を狙って参

戦の意向を表明。昨年のJBCに負けず劣らず、好メンバーが佐賀競馬場に集う大一番は楽しみだ。

その他この2月の佐賀競馬では3歳重賞が2レース組まれている。9日(日)の「飛燕賞」(1400m)は、今年の3歳戦線を占ううえで重要な一戦。この世代は無敗3連勝中のミトノドリーム(牝3)が抜けた存在だが、それに対抗する馬が登場してくるか注目したい。

20日(木)の「たんぼぼ賞」(1400m)は、九州産限定の中央・地方

交流3歳重賞。昨年、JBC当日に2024九州産グランプリが開催され、九州産馬への関心は確実に高まりつつある。2歳夏のひまわり賞(小倉)、3歳夏の霧島賞(佐賀)とともに、九州の生産者にとっては特別に力が入る一戦。1月下旬に行われるトライアルレースの結果で、その勢力図が見えてきそう。

暦の上では「立春」を迎える2月。佐賀競馬場にもひと足早く、春を感じさせるような明るい話題が満開となる予感がする。

さがけいばNEWS

文／大恵陽子 ※記事は2025年1月20日現在のものです。

さがけいばホームページ

さがけいば 検索

28年ぶりの地元馬制覇なるか!? ダートグレード「佐賀記念」!

高校時代、放課後にファーストフード店でMサイズのポテトを友達とシェアしながら喋るのが楽しみだった。今となつては何を話していたか思い出せないくらい他愛もない話にキャッキヤはしゃいでいたのだと思う。何をするでもなく時間が過ぎていった青春時代だった。

そんな筆者とは対照的に、静内農業高校の生徒たちは濃い青春を過ごしている。競走馬の出産に立ち会い、仔馬を育て、セリで売却する。生き物相手だから365日、誰かが当番で世話をせねばならない。生産馬がセリで多くの馬主に注目され、少しでも高く落札してもらうための努力を日々重ねている。

2023年、北海道市場サマーセールにおいて200万円(税別)で落札された静内農業高校の生産馬がいた。のちにマギーズミッションと名付けられたその牡馬は昨年11月、佐賀競馬場で初となるJBC当日の佐賀第1Rでデビュー。主催者は、静内農業高校の生徒2名と引率教師を佐賀競馬場へ招待した。デビュー戦を懸命に走ったマギーズミッションは4着。目の前で走りを見届けた生徒たちは「重賞レースかなというくらい多くのファンの前でデビューできて、安全に走

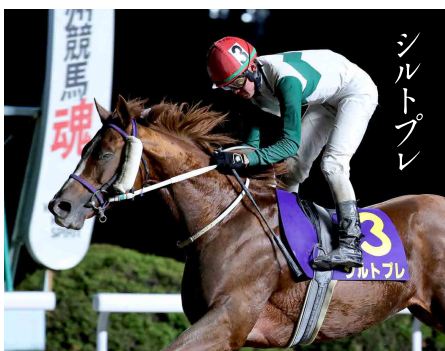
り切ってくれてよかったです」と親身になって育てた馬が競走馬へと成長した姿に興奮した。

2人はともに馬に携わりたくて大阪府や札幌市から静内農業高校への進学を決めた。そして、青春の3年間を馬に捧げ、卒業後は競馬関連の仕事に就くという。

「目の前で勝たせてあげられれば良かったんだけどね」

真島元徳調教師は悔しそうにそう話したが、若い10代の彼らにとっては何物にも代えがたい経験となったに違いない。

佐賀競馬の関係者にとっても貴重な経験となったJBC開催。「想像以上にたくさんの方々が来てくれて、何十年ぶりに活気ある競馬場を見て感動しました」



2024.12.22 中島記念(佐賀)



2024.11.3 土佐秋月賞(高知)

と話す真島調教師だが、2月6日(木)に行われる今年の「佐賀記念(JpnⅢ)(ダート2000m)」は師にとってそのJBC以上に力が入る一戦となるかもしれない。というのも、管理するシルトプレ(牡6)が有力馬の1頭になると目されているからだ。

門別競馬場でデビューしたシルトプレは、川崎や盛岡への遠征を含め北海道所属時に重賞6勝を挙げた。さらに、JRA札幌のエルムS(GⅢ)には2年連続で挑戦して5着、4着。JRAのトップホース相手にも引けを取らない実力を証明して見せた。昨秋のJBCクラシック(JpnⅠ)で4着した後は北海道に帰らず、そのまま佐賀に移籍。移籍初戦の中島記念を楽勝すると、1月11日の特別戦もアツサリと勝利。力の違いを見せつけた。

門別時代から調教をつける石川俊騎手(佐賀で期間限定騎乗中)は「欠点がなくて、乗り難くないのがシルトプレの一番いいところ。レースで能力を出し切れるので、大きな舞台でもしっかり結果を残せているのだと思います」と話す。輸送がひとつの課題だったが、佐賀に移籍したことでの心配がなくなったのは強み。中央・地方交流となつて以降、佐賀所属馬の優勝は96年のリンデンニシキただ1頭。28年ぶりの佐賀所属馬による佐賀記念制覇という大仕事をやってのけるかもしれない。

それに待ったをかけようとする地方馬が、高知のシンメデージー(牡4)。東京ダービー(JpnⅠ)4着、ジャパンダートクラシック(JpnⅠ)5着と、昨年創設されたダート三冠で地方最先着を果たす